

ガザ病院「死の領域」

WHO調査 乳児32人が重体

イスラエル軍によるパレスチナ自治区ガザ地区への軍事侵襲で、世界保健機関(WHO)は19日、ガザ最大規模のシファ病院の状況を「デスゾーン(死の領域)だ」と表現し、残された人々を緊急避難させるよう求めた声明を発表した。▼4面実

態、28面II「ガザ救え」
WHOのチームが院内を調査したところ、入り

口に共同墓地があり、80人が埋葬されていると説明されたという。建物に砲撃や銃撃の痕が確認された。院内は291人の

患者が残されており、乳児32人は重体で、「絶望的な状態だ」と評価した。AFP通信は19日、ガザの保健当局者の話とし

て、乳児31人が避難したと伝えた。エジプトに向かうという。

一方、イスラエル軍は南部にも地上作戦を拡大する方針。同国のガラント国防相は18日の会見で、地上作戦が「第2段階に入った」とした。イスラエルメディアによると、南部ハンユニスなどでも地上作戦が始まるといふ。(エルサレム)高久潤

「安全」求め 南部へ向かった矢先

「誰でもいい。とにかく助けを呼んで！」
10日午後1時過ぎ。パレスチナ自治区ヨルダン

川西岸地区の街ラマラに住むモナ・ハヤルさん(50)の電話が鳴った。約80分離れたガザ市中部

に住む姉(56)が、電話口で叫んでいた。
姉ら家族9人は、イスラエル軍が「安全」だと

する南部へ避難するたため、家を出ていた。出発から7分後、イスラエル軍の攻撃が襲った。

モナさんは病院などに数時間電話をかけたが、つながらない。ガザの医療は崩壊していた。姉によると、母フィリヤル・ダジャニーさん(81)と、めいダリヤさん(36)、義理のめいリナさん(29)のスカーフは血で染まっていた。たった数百名先の病院に避難することもできなかった。3人は、道端で血を流し続けて息絶えた。

(ラマラ)今泉葵